

小学校

平成 6 年 度

教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教育委員会

平成6年度

教育研究員名簿

<第1分科会>

地区名	学校名	氏名	地区名	学校名	氏名
文京北	昭和小学	高木裕一	足立葛飾	六木小学	笹川智恵美
荒川板橋	袋小学	山崎明美	江戸川神津島	南綾瀬小学	城山俊二
	第二瑞光小学	○赤堀美喜夫		第三葛西小学	◇大西敏夫
	桜川小学	山野辺泰子		神津小学	前田みつ江

<第2分科会>

地区名	学校名	氏名	地区名	学校名	氏名
墨田江東	第一寺島小学	本田美鈴	杉並足立	井荻小学	芦谷佳容
品川大田	小名木川小学	鈴木章夫	小平東村山	入谷小学	佐藤正子
	小山小学	◇佐藤智		小平第一小学	田中淑恵
	小池小学	宇田川智恵子		北山小学	○佐藤篤司

<第3分科会>

地区名	学校名	氏名	地区名	学校名	氏名
中央世田谷	久松小学	◎安藤尚立	町田国分寺	忠生第一小学	相楽千恵子
練馬八王子	経堂小学	◇高本陽子	東大和	第十小学	宗像隆一郎
	関町北小学	○野口知義		第四小学	田中陽子
	殿入小学	黒部久子			

<第4分科会>

地区名	学校名	氏名	地区名	学校名	氏名
新宿世田谷	愛日小学	◇安藤みはる	武蔵野青梅	境南小学	秋間正明
江戸川八王子	池之上小学	佐藤恵一	府中町田	今井小学	五十地佳代子
	第五葛西小学	○高橋徹		府中第七小学	齋藤賢二
	第八小学	小澤由美子		南成瀬小学	山田路子

◎全体世話人 ○分科会世話人 ◇分科会副世話人

担当指導主事 後藤 忠 教育庁指導部初等教育指導課

研究主題 よりよく生きる力を育てる道徳授業

目 次

◇ 研究主題について	2
◇ 研究主題の概要	3
I 自己を見つめる指導の工夫（第1分科会）	4
1 分科会テーマ設定の理由	
2 児童の実態調査	
3 自己を見つめる心を育てる指導の工夫	
4 実践事例	
II 互いのよさを認め、高め合おうとする心を育てる指導の工夫（第2分科会）	9
1 分科会テーマ設定の理由	
2 児童の実態調査	
3 互いのよさを認め、高め合おうとする心を育てる指導の工夫	
4 実践事例	
III 美しいものに感動する心を育てる指導の工夫（第3分科会）	14
1 分科会テーマ設定の理由	
2 児童の実態調査	
3 美しいものに感動する心を育てる指導の工夫	
4 実践事例	
IV 郷土を愛する心を育てる指導の工夫（第4分科会）	19
1 分科会テーマ設定の理由	
2 児童の実態調査	
3 郷土を愛する心を育てる指導の工夫	
4 実践事例	
◇ 研究の成果と今後の課題	24

研究主題

よりよく生きる力を育てる道徳授業

◇研究主題について

今日の社会は、科学技術の進歩、産業・経済の発達が目ざましく、それとともに情報化、国際化、価値観の多様化など、社会の各方面に大きな変化が起きている。しかもこうした傾向は、今後ますます激しくなっていくことが予想されている。

こうした状況を踏まえ、これからの学校教育に対して、とりわけ、豊かな心を持ち、たくましく生きることができる人間の育成や自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成が求められている。

道徳教育は、主体性のあるこれからの日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目的として行われる教育活動である。道徳教育は学校の教育活動全体をとおして行うことを基本とするが、このような学校教育全体で行う道徳教育を補充し、深化し、統合する役割をもつ道徳の時間の意義は大きい。

道徳の時間は、ねらいとする道徳的価値を一人一人の児童が内面から自覚し、生活の様々な場面や状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような道徳的実践力を育てることを目的にしている。

確かな道徳的実践力を育てるには、児童一人一人が本来的にもっているよりよく生きたいという願いに基づき、児童が自分の在り方や生き方を自ら考え、判断し、伸び伸びと表現する学習活動を行い、こうした学習をとおして肯定的な自己理解を深めることができるようにすることが大切である。

そこで、研究主題「よりよく生きる力を育てる道徳授業」に迫るため、本年度は道徳の指導内容の4つの視点から、それぞれの目指す児童像を掲げ、分科会ごとのテーマに沿って研究を進めた。第1分科会では、自分を振り返り、自分のよさや可能性に気づき、自ら向上しようとする児童を目指して、「自己を見つめる心を育てる指導の工夫」、第2分科会では、互いのよさを認め合い感じ方や考え方を高め合おうとする児童を目指して、「互いのよさを認め、高め合おうとする心を育てる指導の工夫」、第3分科会では、豊かに感じる心を持ち自らを高めようとする児童を目指して、「美しいものに感動する心を育てる指導の工夫」、第4分科会では、郷土に親しみ、大切にし、それを育てていこうとする児童を目指して、「郷土を愛する心を育てる指導の工夫」をテーマとした。

これらのテーマを追究するにあたり、児童の側に立ち、児童が個性を発揮し、一人一人のよさが伸びることを中心に、授業研究を通して、望ましい道徳授業の在り方を探っていきたいと考えた。

◇研究の概要

豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成

研究主題
よりよく生きる力を育てる道徳授業

第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会
<p><目指す児童像></p> <p>自分を振り返り、自らのよさや可能性に気づき、向上していく児童</p>	<p><目指す児童像></p> <p>◎相手のよさを認める児童 ◎自分のよさを大切にする児童 ◎感じ方・考え方を互いに高め合う児童</p>	<p><目指す児童像></p> <p>豊かに感じる心を持ち、自らを高めようとする児童</p>	<p><目指す児童像></p> <p>郷土に親しみ、大切にし、育てていこうとする児童</p>
<p><分科会主題></p> <p>自己を見つめる心を育てる指導の工夫</p>	<p><分科会主題></p> <p>互いのよさを認め、高め合おうとする心を育てる指導の工夫</p>	<p><分科会主題></p> <p>美しいものに感動する心を育てる指導の工夫</p>	<p><分科会主題></p> <p>郷土を愛する心を育てる指導の工夫</p>
<p><仮 設></p> <p>多様な価値観にふれ、自分のよさに気づき、それを内面的に自覚できる指導を工夫していけば、自己を見つめる心が育ち、よりよく生きようとする児童を育成することができる。</p>	<p><仮 設></p> <p>○登場人物の感じ方、考え方、行為のよさを認める。 ○友達や先生の感じ方、考え方のよさを認める。 ○自分なりの感じ方、考え方を表現する。 以上の指導を工夫すれば、進んで高め合おうとする心が育つ</p>	<p><仮 設></p> <p>人の心の崇高さや自然の偉大さ、不思議さにふれ、それに感動することができる指導を工夫すれば、豊かな心をもつ児童が育つ。</p>	<p><仮 設></p> <p>郷土にかかわる適切な資料を通して、郷土での自分の生き方を振り返ることができる指導を工夫すれば、郷土を愛する児童を育てることができる。</p>
<p><指導の工夫></p> <p>・児童理解 ・資料の選択と開発、提示の工夫 ・発問の工夫 ・話し合い活動の工夫 ・他教科等との関連 ・自己評価の工夫 ・支援の工夫 ・事前、事後指導の工夫</p>	<p><指導の工夫></p> <p>・資料の登場人物のよさに着目する。 ・資料を十分吟味し、資料提示を工夫する。 ・多様な表現活動を工夫する。</p>	<p><指導の工夫></p> <p>・児童理解 ・資料の選択と活用 ・発問の工夫 ・学習活動の工夫 ・他教科等との関連 ・体験の重視 ・事前、事後指導の工夫 ・児童の立場に立った支援の工夫</p>	<p><指導の工夫></p> <p>・児童理解 ・資料の選択と開発、提示の工夫 ・発問の工夫 ・話し合い活動の工夫 ・他教科等との関連 ・自己評価の工夫 ・支援の工夫 ・事前、事後指導の工夫</p>
<p>検 証 授 業</p>			
<p>総合的評価（指導計画、指導方法、児童の変容）</p>			

I 自己を見つめる指導の工夫（第1分科会）

1 分科会テーマ設定の理由

現代は、科学の進歩がめざましく、情報化・国際化の時代ともいわれ、人々の価値観も多様化してきている。また、日常生活に目を向けても、産業や経済の発展によって豊かな商品があふれ、物質的には楽に生活できる社会になってきている。このことは、より便利な生活が営めるといふ点で、素晴らしいことである。しかし、こうした生活に伴い、児童が自らの知恵を発揮して物事に取り組む機会が減り、児童が希望や目標をもってやりとげたり、成就感を味わったりすることが少なくなってきている。その結果、依存的、受け身的な生活態度になりやすく、自立が困難になっている傾向も見られる。

第1分科会ではこうした現状をふまえ、全体のテーマである「よりよく生きる力を育てる道徳授業」のよりよく生きる力を、肯定的な自己理解を深め、より高い希望をもって、自己を高めていこうとする力と考えた。児童がこうした力を道徳の授業のなかで身に付けていくには、児童が今までの自分を振り返り、自己内対話を通して、より積極的に自己像を描くようにすることが大切である。そこで、「自己を見つめる心を育てる指導の工夫」を研究主題として設定した。

2 児童の実態調査

(1) 調査の目的

道徳の授業に対する児童一人一人の受けとめ方や意識の実態を探り、指導の工夫に役立てる。

(2) 調査の方法

質問紙による選択技法。

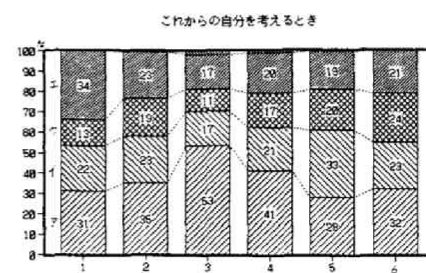
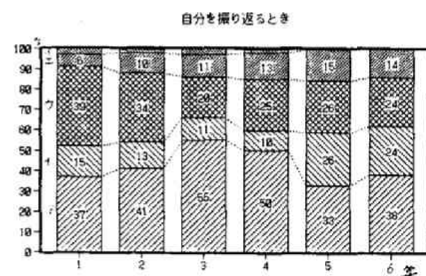
(3) 結果と考察

① 道徳の時間の中で、今までに自分がやってきたことを考えるのはどんな時ですか。

- ア お話に出てくる人の気持ちを考えている時。
- イ みんなで話し合っている時。
- ウ ワークシートなどに自分の考えを書いている時。
- エ 先生のお話を聞いている時。
- オ このほかにあったら書きましょう。

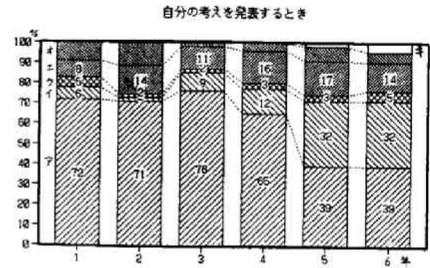
② 道徳の時間の中で、自分は「これから こうしたい。」と考えるのはどんな時ですか。

- ア お話に出てくる人の気持ちを考えている時。
- イ みんなで話し合っている時。
- ウ ワークシートなどに自分の考えを書いている時。
- エ 先生のお話を聞いている時。
- オ このほかにあったら書きましょう。



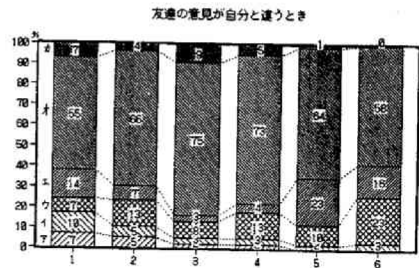
③ 道徳の時間で自分の考えを発表するとき、どんな方法がいいですか

- ア 手をあげてさされて発表する。
- イ 自由にどんどん発表する。
- ウ 手をあげないで先生にさされて発表する。
- エ グループで話し合った考えをまとめて発表する。
- オ 紙に書いたものを自分で読む。
- カ 紙に書いたものを先生に読んでもらう。
- キ その他



④ 道徳の時間で、友だちの意見が自分の意見とちがうときどんなことを思いますか。

- ア 私とちがう意見を言うなんて、いやだなあ。
- イ そういう意見もあるのか、でも、私の方が正しいと思う。
- ウ そういう意見もあるのか、私のはまちがっているのかなあ。
- エ どうして私の意見とちがうのかなあ。
- オ そういう意見もあるんだ。友だちの意見が聞けてよかった。
- カ その他



自己を振り返ったり、これからの自分について考えたりするのは、「資料の登場人物について考える時」が多いことから、児童の実態にあった資料を吟味する必要がある。また、高学年になるにつれて、「話し合いの時」が多くなり、発言も自由にどんどん言える方法が好まれてくる。こうしたことから、話し合いを広げ、深めることができる発問を工夫したり、補助発問などを工夫したりしていくことが必要と考えられる。また、どの学年においても、友達との意見が違う場合もそれを認める割合が高く、話し合いにより他の人の考えに触れることが自己を見つめる上で意味があることがわかる。

3 自己を見つめる心を育てる指導の工夫

本分科会では、「自己を見つめる心」を「ねらいとする道徳的価値についてかかわり、素直に自己の行為や考え方を振り返り、積極的に自己像を描こうとする心」と考え、その心を育てる指導の工夫に取り組んだ。

また、自己を振り返るには、友達の考えを知り、自分との共通点や違いに気付き、自己に問いかけ、自分の考えを深めていくことが大切と考えた。そのためには、自分の考えをもち、それを表現する力を育てることが必要と考え、「自己を表現する力」を育てる指導の工夫に取り組んだ。

① 事前の工夫

- ・道徳的価値に対しての意識調査や実態調査を行い、児童をよく理解する。
- ・自由に自分の思いや考えが出せる雰囲気や学習形態を工夫する。
- ・意識調査や実態調査の結果をもとに、ねらいとする価値に対する意識を座席表に記す。
- ・行事などの体験を生かすとともに、常に、各教科等との関連を図るようにする。

② 授業の工夫

視 点	自己を見つめる心を育てるために	自己表現する力を育てるために
導 入	ねらいとする道徳的価値や資料への興味、関心、期待感をもつようにする。 ・アンケート結果の提示・経験の発表・教師の説話・諺・格言・新聞記事・歌 ・児童の作文・手紙・詩などの提示・視聴覚機器の活用	
発 問	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にわかるように、はっきりした声で、ゆっくり話すようにする。 ・1問多答の発問を工夫する。 ・話し合いが深まる発問を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考える視点を明確にする。 ・考える時間を十分にとる。 ・中心発問は多様な考えが出せるよう工夫する。 ・補助発問を工夫する。
資料提示	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公に共感しながら聞けるよう、聞く視点をあらかじめ話す。 ・語りかけ・暗唱・写真・場面絵・写真・VTR・効果音・紙芝居・ペープサート、パネルシアター・TP・影絵などの工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ聞いたり見たりする視点を明確にする。
話し合い (形態)	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を十分確保する ・自分と友達の考えを比べながら、話し合う。 ・児童の意見を分類、整理して板書し、それをもとに話し合う 	話し合いの目的にあった学習形態と表現方法を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習形態の例 「V字型」「半円形での話し合い」「円形での話し合い」「2人～6人グループでの話し合い」「椅子のみを使用した半円での話し合い」 ・発言方法の例 「挙手をしての相互指名」「教師の指名による発言」「立ち上がって自由に発言する」「バズセッション」「小グループで話し合う」「ブレンストーミング」
書 く	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことが苦手な児童に助言、援助をする。 	書く視点を明確にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの工夫・手紙 ・吹き出し・道徳ノート
役割演技 動作化等	<ul style="list-style-type: none"> ・見たり、聞いたり、演じたりする視点を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の目的にあった表現方法を助言する。 動作化、ネームマグネットの活用 ロールプレイング(役割演技)
指 名	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して伸び伸びと表現できる雰囲気づくりに努める。 	
板 書	<ul style="list-style-type: none"> ・発問や、発表された考えなどを確かめられるようにする。 ・話の展開や登場人物の心の変容がわかるようにする。 ・発表された考えなどを比較しやすいように、分類、整理する。 	
資料選択	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や、生活感覚にあった資料、感動する資料を吟味、開発する。 	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分を振り返る自己評価カードを活用する。 ・児童が自らの考えを確かめることができるようなカードを工夫する。 	

③ 事後の工夫

- ・ワークシート、道徳ノートなどに、教師のことばを書き入れ、認め励ます。
- ・家庭、地域社会との連携(道徳通信、授業の公開)を図るとともに、他の教育活動との関連を図る。
- ・道徳の授業の成果が生活の場に生きるようにする。

④ その他の指導上の留意点等の工夫

○学習過程を柔軟に考えていく

- ・児童の考えを引き出し、そこから学習の方向を明らかにするようにする。
- ・児童の心の動きを重視するようにし、児童の願いに沿った展開を作るようにする。
- ・重点内容項目については、2週にわたる授業を設定するなどして、道徳的実践力の育成を図るようにする。

○自作資料の工夫

- ・児童の実態に合ったものや、生活感覚に合った資料の自作を試みる。

4 実践事例 (第6学年)

(1) 主題名 自分のいいところ (1-⑥個性伸長) 資料名「連合運動会」(自作資料)

(2) ねらい 自分の長所を知り、その長所を生かそうとする心情を育てる。

(3) 指導の実態(抜粋)

T 場面絵を提示しながら、資料を語り聞かせる。

資料提示前に、登場人物を紹介した。

集中して話が聞けるように、暗唱による語り聞かせを行いながら、発問に関連する場面絵を提示した。

T 良夫君に声をかけられても、黙って走って帰った時の進君の気持ちを考えましょう。
(挙手による相互指名)

C 私もこれと似た経験がある。最初幅跳びに出たかったけれど、ハードルに出ることになった。でも、今ではハードルに出ることになって良かったと思っている。

児童の実態にあった資料を扱うことは、資料の登場人物に自分を照らし合わせて考えるという点で、有効であった。

(C) 迷っている8人 がっかりしている4人 くやしい10人 うらやましい1人(挙手)

T 進君のことで意外なことを耳にしたあと良夫君は、どんなことを考えたと思いますか
(立って自由に思ったことを発言する)

C 良夫君は毎朝マラソンを続けてきたから、自分よりもすごいと思った。…… 6人

C ぼくも進君と同じようにハードルをがんばったと思う。…… 7人

C 朝練の準備をしない良夫君を恨んで、悪かったと思っていると思う。…… 3人

C お母さんが病気で、忙しいのにがんばっていてえらいなあ。…… 13人

中心発問として、話し合いを深めるためには、「このなかで、進はどの考えが一番強かったと思うか。」といった補助発問を用意することが必要であった。

- T 二人のいいところを見つけましょう。(小集団で話し合う)
- C 進・ハードルの研究をした・自分から謝った・朝練の準備を続けた・めげなかった・良夫・謝る進を許すやさしさ・親孝行・おちこんでいる友達に声をかける友達おもしろい
- T 全員に友達から見た君たちの長所が書いてあるカードを配ります。感想を書きましょう。
- C おもしろいがあると書いてあり、私はそのことに気づいていなかったの、うれしい。
- C 自分の長所はわからなかったが、カードを読んでここが長所なんだと、自信がもてた。

このカードは、児童一人一人が自分のよさを再発見し自信をもつことができた点で有効であった。

- T 今までの自分、これからの自分について考えてみましょう。(自己評価カードを配布)

A自分の長所を伸ばす努力をしている。 ……………	……	0人
B自分の長所は知ってはいるが、伸ばす努力は足りない。 ……………	……	6人
C自分の長所には気づいていないが、好きなことは努力している。 ……	……	16人
D他人の長所をうらやむだけで、自分で努力することはしていない。 ……	……	0人
ア自分の長所をさらに伸ばす努力をしようとする気持ちにかなりなった	……	4人
イ自分の長所をさらに伸ばす努力をしようとする気持ちに少しなった。	……	16人
ウ自分の長所はわかったが、それをさらに伸ばす努力をしようと思うま でははいていない。 ……………	……	0人
エ自分の長所があるとは今でも思えない。 ……………	……	2人

B C、イウの選択者が多いことから、自己理解が深まり、自己を高めていく意欲づけにつながったと考える。ただし、エを選んだ児童については、自己有用感や自尊心を育てる指導の工夫が課題となった。

(4) 考察

話し合いの時間を十分に確保することは、友達の考えを知り、自分との共通点や違いに気付くという点で有効であった。しかし、発言のあった意見に対して、他の児童がどんな考えをもっているかを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりしていく活動が少なかった。ねらいとする価値について自己をより深く見つめるためには、話し合いを広げ、深めることができるような手だてを工夫する必要がある。

Ⅱ 互いのよさを認め、高め合おうとする心を育てる指導の工夫 (第2分科会)

1 分科会テーマ設定の理由

児童は、本来的に「よりよく生きたい」「より向上したい」という願いをもっている。その願いは、互いのよさを認め合ったり称賛し合ったりする中で実現し、さらに高まっていくと考える。

「先生、謝るって勇気がいるね。すごくときどきした。でもね、謝ったら、『大丈夫だよ』って言ってくれた。A君って、優しいんだ」「今日の休み時間、遊んでいる子に『仲間に入れて』って頼んだら、『いいよ』って言ってくれた。心配することはなかった。また、明日も一緒に遊びたいな」「一人でつまらなそうにしていたから、『一緒に遊ぼう』って声をかけたら、すごく嬉しそうな顔をしたよ」

友達の優しさを感じて喜んでいる児童。仲間に入れてくれる友達がいたことを喜んでいる児童。自分の気持ちが相手に通じたことを喜んでいる児童。そこには、相手とかかわることの楽しさや喜びを感じている児童がいる。

もっと多くの児童に、もっと多くの場面で、互いのよさを見つけ認め合うことの楽しさや互いの心が通い合い理解し合うことの喜びを感じてもらいたい。また、相手に対して思いやりの心をもって接したときの充実感を味わってもらいたい。これが私たち分科会の願いである。

そこで、他の人とかかわる活動を学習に取り入れる中で、

- ・互いのよさを見つけ、認め、伝え合うことができるようにする。

(互いの心が通い合い理解し合うための基本である)

- ・自分のよさを気付き自分のよさに誇りを感じることで、自分を肯定的に理解することができるようにする。

(生きることの自信につながると考える)

を目指すことが、「よりよく生きたい」「より向上したい」という願いを生かすことにつながると考え、分科会テーマ「互いのよさを認め、高め合おうとする心を育てる指導の工夫」を設定した。

この研究テーマのもとに、道徳の時間においては、

- ・資料中の登場人物の感じ方や考え方・行為のよさに気付く
- ・友だちや先生の感じ方・考え方のよさに気付く
- ・自分のよさに気付く
- ・自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現する

以上の活動を積み重ねることを重視して研究を進めることにした。

2 児童の実態調査

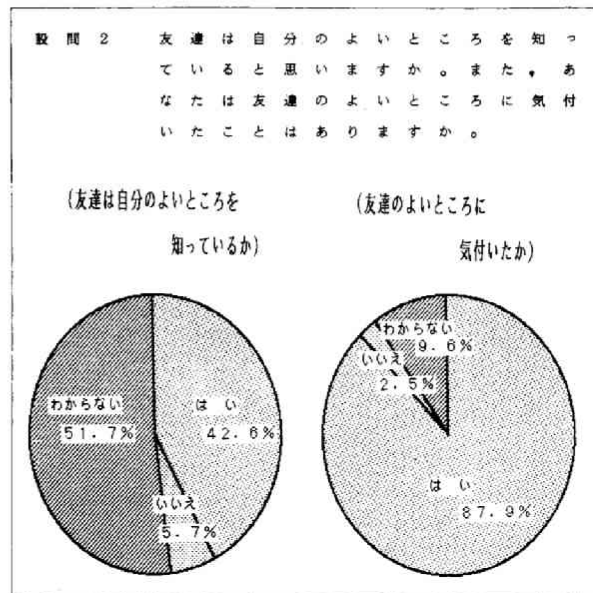
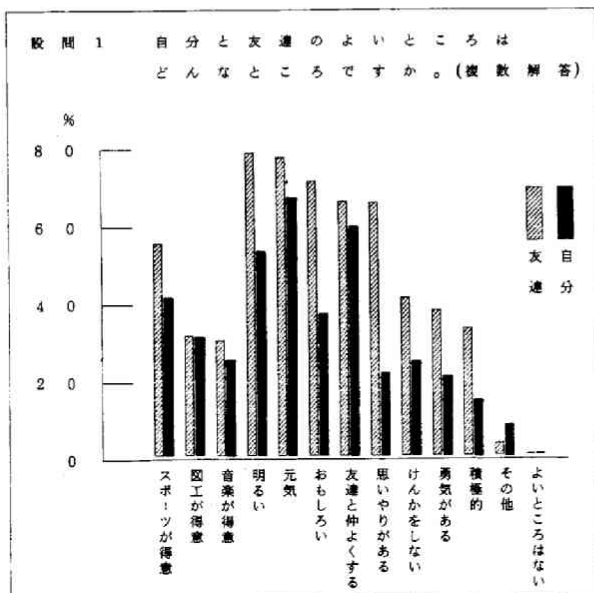
(1) 「よさ」に関する児童一人一人の考えや意識の傾向を把握することにより、分科会研究主題の解明に役立つ。

(2) 方法

一部自由記述を含む選択技法による質問紙法を用い、中・高学年同一内容で実施した。

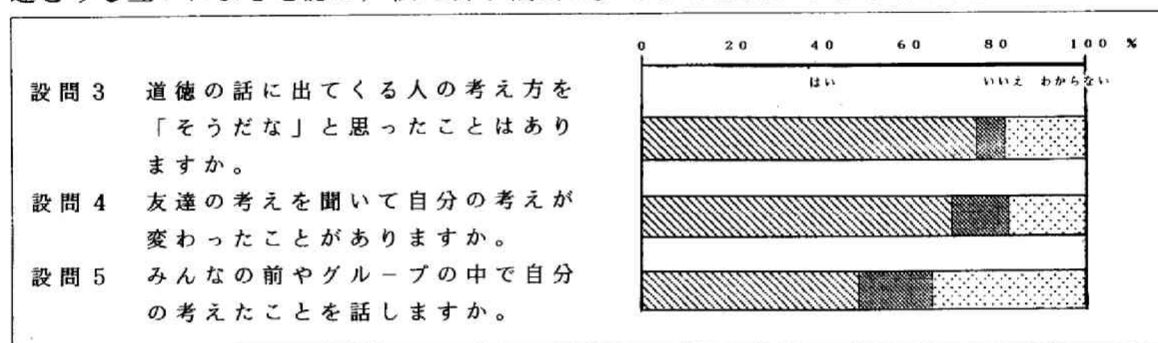
東京都公立学校（8校3年生以上524名9月実施）

(3) 結果と考察



設問1から、児童は友達について特に性格面のよさを高く評価している。しかし、自分の性格面のよさは気付きにくいようである。

設問2からは、友達のよさを相手に伝えていないのではないかとと思われる。そこで、友達どうし互いによさを認め、伝え合う機会を多くする必要があると考える。



設問3・4から、資料とかかわり友達とかかわることで、自分の考えが深まったり広がったりすることがわかる。そこで、資料の選定には十分配慮するとともに、友達とかかわる場を多く設定する必要がある。

また設問5から、自ら感じたことや考えたことをより多くの児童が表現しやすいよう学習方法を工夫することが大切であると考えられる。

3 互いのよさを認め、高め合おうとする心を育てる指導の工夫

「よさ」について、次のように考えた。

- ・全ての人が本来もっている、よりよく生きたい、より向上したいという願いのことである。
- ・一人一人の児童の関心・意欲・態度・思考・判断・技能・表現、知識・理解などの中にあ
り、周りの人間や社会、自然や文化などとのかかわりを通して、高まり発揮されるもので
ある。
- ・一人一人の児童がもっかけがえのない個性のことである。

指導の工夫

道徳の授業での手だて

① 資料選択の観点

- ・登場人物の感じ方・考え方を見い出せる資料を選択する。
- ・児童の実態に合った資料を選択する。

※児童が共感できる資料

※資料の中に描かれているよさが、自分や友達の中に見い出だすことのできる資料

② 児童への働きかけ

- ・よさに着目できるようにする。
- ・豊かに伸び伸びと表現できるように、多様な表現活動を取り入れる。
表現活動：話し合い、動作化、役割演技、ワークシートなど。
※友達の話をよく聞き（書いたもの・活動をよく見て）よさに気付くようにする。
※友達や先生と自分の考えを比べ、共通点や違いに気付くようにする。
※友達の考えと関連づけて話し合うようにする。
- ・表現活動にふさわしい学習形態を工夫する。
机の並べ方、話し合う形態
- ・教師の感じ方・考え方のよさが伝わるように内容や話し方を工夫する。

学級経営上の留意事項

- ・受容的で肯定的な児童理解をする。
(児童一人一人のよさを認め生かし、伸
ばしていこうとする教師の態度が、児
童と教師、児童相互の信頼関係を築い
ていく)
- ・共感的に聞く態度を育てる。

他教科での手だて

- ・学習過程の中で、互いのよさが見出だ
せる態度を育てる。
- ・互いを尊重し、互いのよさを見つけ合
おうとする態度を育てる。

4 実践事例（第5学年）

- (1) 主題名 友情を考える（2-③信頼・友情） 資料名 「友のしょうぞう画」
(2) ねらい 友達と互いに信頼し励まし合って、友情を深めていこうとする心情を育てる。

(3) 指導の実際（抜粋）

- T 友の肖像画を見て涙をこぼしたのは、和也がどのような気持ちになったからなのか。
登場人物（和也）のよさを見つめるための発問。
- C 一生懸命作品展に出すために、約1年もかかっていたのに、僕は手紙を書くのをやめてしまった。正一君、ごめんね。
他にありませんか。
- C ○○さんの続きとして言いたいのですが、一刻も早く家に帰って、正一に手紙を書こう。
前の人の発言を受けての発言である。
（同意見多数）
- C まだ、僕のことを忘れないでいてくれたんだ。
- C 鉛筆ももてなくなった手で、1年も版画を作っていたなんて……。
- C 付け足しなのですが、やっぱりあいつは僕の言ったとおり病気に勝ったんだ。
- T みんなの意見をまとめてみます。
意見を分類・整理して板書することにより、お互いの受けとめ方のよさを確かめることができた。
（板書）・一刻も早く家に帰って手紙を書こう。
・まだ、僕の事を忘れないでいてくれてたんだ。
・やっぱりあいつは、病気に勝ったんだ。
・鉛筆も持てない手で、1年も版画をかいていてくれてたなんて……。
- T 今までのみんなの生活の中で、友達が自分のことを思ってくれてるな、考えてくれるなと感じるような友達のよさに気付いたことはありませんか。
自分のことを思っている友達のよさを述べることにより、その友達自身が自分のよさに気づき、高め合うことができると考えた。
- C ○○さんなんです、私が熱を出して休んだ次の日、学校で「大丈夫？」と言ってくれた。
- C 20分休みなどにバスケをやっているとき、○○君や△△君は失敗したときに「ドンマイ」とかけ声をかけてくれる。
- T どんな気持ちでした？
その時の気持ちを聞くことにより、友達が自らのよさに気付くことをねらって補助発問を行った。
- C 嬉しかった。
- C 前の家庭科の時間、全部道具を忘れたときに、○○さんに貸してもらったのが嬉しかった。
- C 20分休みなどに縄跳びをやっていると○○君と△△君に「数えていて」と言うと数え

Ⅲ 美しいものに感動する心を育てる指導の工夫（第3分科会）

1 分科会テーマ設定の理由

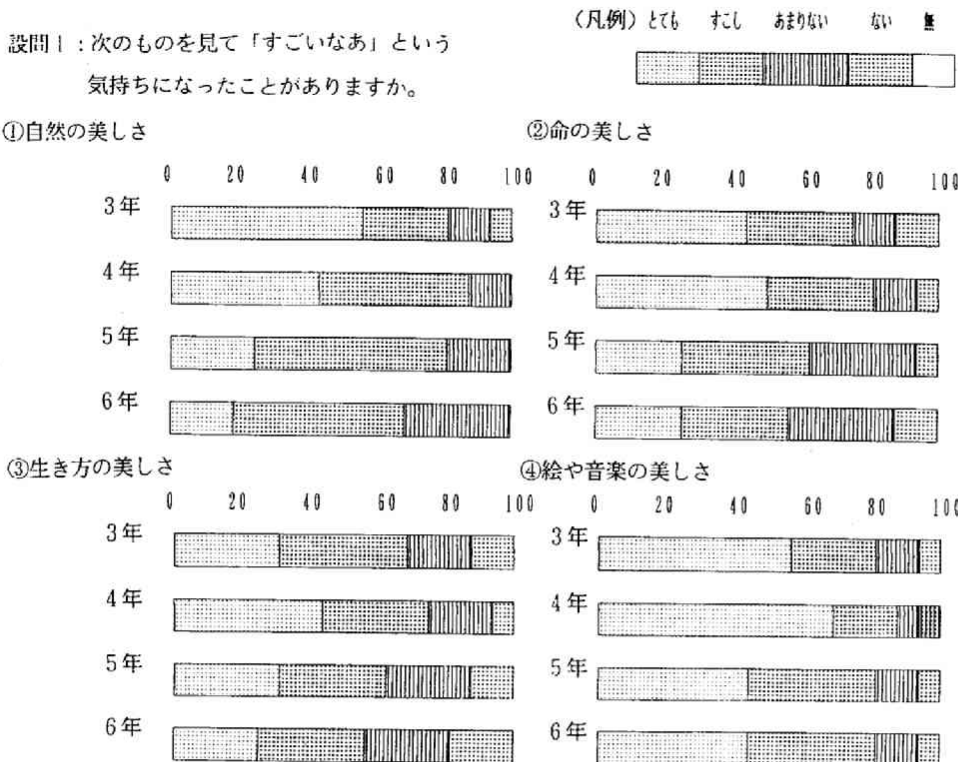
今日、科学技術の発達や経済の高度成長などによる生活環境の変化や、それに伴う価値観の多様化などによって、自然や生命の尊さ、生きることの意味や意義について、深く見つめ、考える機会が乏しくなっているという指摘がある。このような時代だからこそ、自然の中にある様々な美しさや、かけがえのない生命に目を留めたり、人間の心の崇高さに触れたりして感動を味わうことは、豊かな心をもって生きる上できわめて重要である。

そこで、児童に「美しいもの」との感動的な出会いの機会を多くし、児童一人一人が豊かに感じ、豊かに表現することを大切に授業を目指すことが必要であると考えた。

第3分科会では、研究主題「よりよく生きる力を育てる道徳授業」のよりよく生きる力を、「豊かに感じる心を持ち、自らを高めようとする力」ととらえた。主として自然や崇高なものとかかわりの視点から、副主題「美しいものに感動する心を育てる指導の工夫」とし、「美しいもの」を、自然の偉大さ、人間のもつ心の崇高さととらえて、研究テーマに迫ることとした。

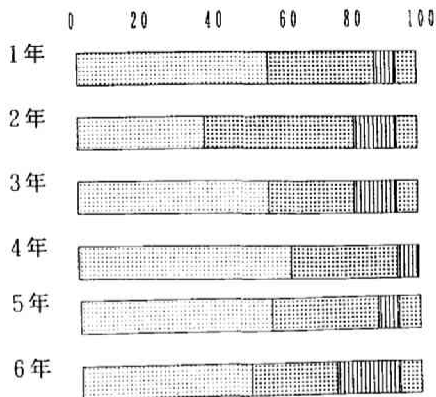
2 児童の実態調査

- (1) 調査のねらい 児童の美しいものとの出会いと感動、また、美しいものへの憧れについての感じ方や願いを知り、指導の工夫に役立てる。
- (2) 方法 選択肢法による質問紙法を用いた。三地域（中央区・練馬区・八王子市）の1～6年の児童、低学年用（1，2年），高学年用（3，4，5，6年）
- (3) 結果と考察 計 549名



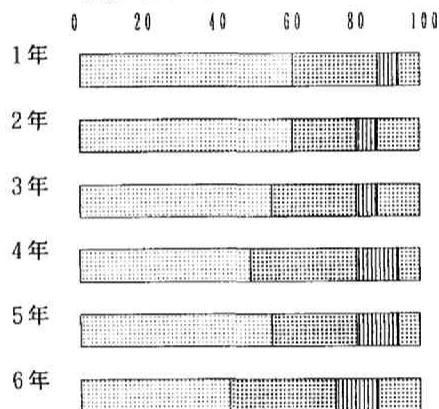
・①④に感動した児童の割合は高い。しかし、②③の命の美しさや生き方の美しさに感動した児童の割合は低い。特に、高学年では、5割である。学年の発達によるものの見方、感じ方の変化もあろうが、これからの生き方を見つめる上で、美しい生き方や命の尊さを大切に育てる指導が必要である。

設問2：星空を見て、自然の大きさや偉大さを感じる人がいます。あなたは同じように感じますか。



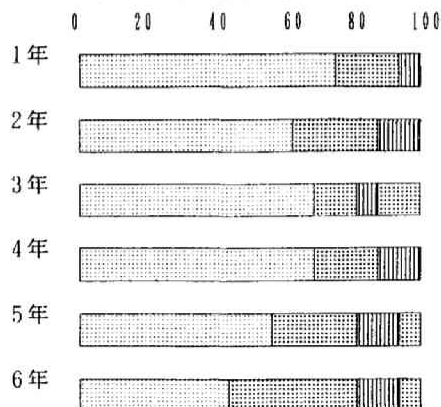
・星は、自然のなかで身近な存在であるが、学年により、そのイメージが異なる。(例えば、低学年では、七夕のお星さま、高学年では、惑星や恒星等の星など) いずれにしても、自然の摂理や偉大さを科学的につかむ一方で、感性を育む指導にも力をいれていく必要がある。

設問4：素晴らしい生き方をした人の話があります。あなたは、それを聞きたいと思いませんか。

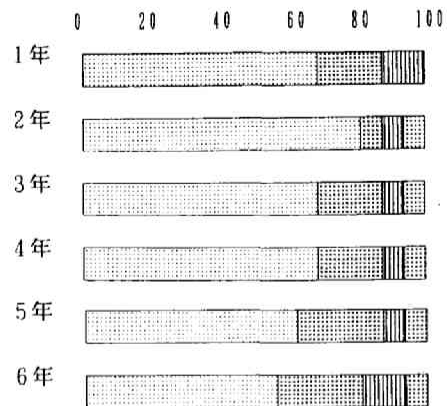


・設問1の③で、感動した経験が少ないことが分かったが、ここでは、体験がなくても素晴らしい生き方に触れたいと思う児童が多いことが分かる。資料の選択に当たっては、人間の力強い生き方や崇高さに触れることができるよう留意したい。

設問6：あなたは、美しい心を持った人になりたいと思いませんか。

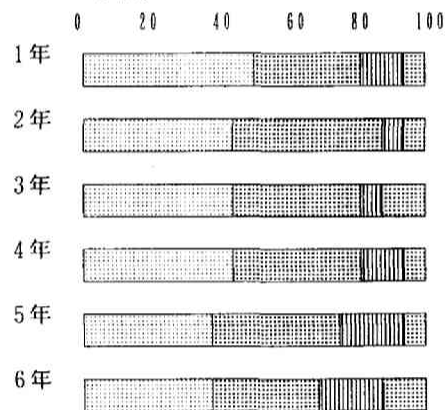


設問3：おじいちゃんやおばあちゃんが死んでも、どこかで私を見守ってくれるという人がいます。そう思いますか。



・「とてもそう思う」が多く見られた。かけがえのない命が死を迎えたとき、どの学年も9割以上の児童が、敬虔な気持ちで受けとめている。

設問5：物語、絵、音楽などに感動する人がいます。あなたは、感動したいと思いませんか。



・設問1の体験では、8割以上の児童が、感動したと答えているのに対し、ここでは「これからの自分について」は低い値となった。豊かな感動体験を積み重ねる機会を教育活動全体を通して工夫していく必要がある。

5、6年生が他の学年と比べて、低くなっているためと考える。どの学年も8割以上の児童が美しい心をもちたいと願っている。より一層の心に響く指導の工夫が大切である。また、そう思わないという1割から2割の児童については、美しいものに触れたり、感動したりする体験を積み上げていくことによって、自分からそれらを求めようとする気持ちを育てたい。

	<p>グ」を扱ったり、舞踏に興味をもつ教師が「バレエに思いをこめて」を扱ったりし、自らの体験を児童の心に訴えた。主資料に関する人物や場所について補助資料を用意すると、より効果的である。</p> <p>○教師の体験を補うために、地域の人を授業の中で生かす。「カタクリ群落」（練馬区版）の授業では、資料中の人物に登場してもらい、体験を語ってもらった。</p>
<p>学習活動の工夫</p> <p>〔導入〕</p> <p>〔展開〕</p>	<p>○視聴覚資料を活用し、資料への興味・関心や臨場感を高めた。自然の摂理の偉大さについての授業では、宇宙から見た地球の映像を放映した。「一ふみ十年」では、絵・写真・OHP・録音テープを使った。</p> <p>○児童の資料に対する思いを大事にするため、資料範読後、児童の心に残った場面から発問を構成し、展開していく方法を取り、授業で検証した。発問例：「資料を読んで、どの場面が印象に残りましたか。」</p> <p>○発問を必要最小限に絞り、児童が考える時間を確保した。考えを深める場面では、話し合いを工夫した。（小グループでの話し合い、パネルディスカッション、ディベート、役割演技等）</p> <p>○授業の展開の中に、操作的な活動を取り入れた。「一ふみ十年」の指導では、マッチ棒の軸に年輪を書き込む活動を通して、児童が年輪の重さを疑似的に体験し、効果をあげた。</p> <p>○俳句の資料を使った授業では、「天国」の部分をおくし、様々な言葉を考え合う中で、その言葉のもつ深さを十分に味わい、作者の父親への敬虔心に感動することができた。</p> <p>○ワークシート等、書く活動を重視し、児童一人一人が自分の考えをもつことができた。</p> <p>○「戦場が原のハイキング」では、実際に教師が登山のときの体験談を語った。体験した人しか感じることでできない自然の偉大さ、美しさについての語りは、児童の心に感動を与えた。</p>
<p>事前・事後指導</p>	<p>○各教科・特別活動等、学校の教育活動全般で、また、家庭生活、地域での生活等で、気づいたこと、驚いたこと、感動したこと、不思議に思ったこと等を、常に意識して教師が記録し、授業に役立てる。</p> <p>○ワークシートや、授業の使用した教材、教具等を教室内に提示し、道徳的实践意欲を喚起していく。</p>

4 実践事例（5学年）

(1) 主題名 「自然の美しさ、偉大さ」（3-③）

資料名 「一ふみ十年」

(2) ねらい 自然の美しさ、偉大さに感動する心を育てる。

(3) 指導の実際

(資料範読の後) どの場面が印象に残りましたか。

中心発問を児童の感想から組み立てた。その結果、意欲的に学習に取り組んだ。

- C マッチ棒の太さになるまで10年もかかること。
- C 踏みつけると、元に戻るには10年以上もかかるなんて、驚きだ。
- C こんな小さなチングルマにも年輪があるということ。
- C 観光客の中には植物を平気で踏みつけてしまう人がいる。
- T 年輪の話が出ましたが、その年輪を見せてあげます。(OHPを提示して、実際に年輪を数えてみる。写真のチングルマは17本の年輪があった。)

補助資料として、視聴覚教材(本時ではビデオ・OHP・写真テープ)を利用した。特にビデオの使用は、立山へ訪れたことのない児童に自然の美しさを伝えることができ、効果的であった。

- T 今度は、マッチ棒を使って、年輪を書いてみましょう。(一人一人にマッチ棒を配り、鉛筆で書いてみる。5～6本書くと、それ以上はほとんどの児童が書けない。)
- T 感想を言ってください。
- C マッチ棒の中に10本以上もあって、目が痛くなるほど細かい。
- C 人間には造れないのに、植物が造れるなんて自然の仕組みはすごい。

話し合い活動では、多様な意見の交流によって児童相互で学び合うことができるようにした。この資料の特性から、感想の交換で終わってしまうことが多かったが、児童が自由、活発に意見交流をしていた。

—その他—

道徳的価値に関連する実態調査によって、ねらいを達成するための児童理解を深めた。教科等の関連を考え、道徳の授業だけでなく、学級の指導計画にそった授業を展開していった。今回は、個人メモを作り、日頃の児童の道徳的実践に関して記録した。

(4) 考察

- 資料選択に際しては、児童の心に残るもの、実際の生活場面に即した資料を選んだ。
- 資料と視聴覚教材(本時ではビデオ・OHP・写真テープ)の併用によって、ねらいに迫ることができた。
- 教師主導型から児童中心の授業の組み立てによって、授業の中で児童が主体的に学習する場面が多くなった。
- 話し合い活動では、感想を交換し合い、自分の意見と他の人の意見とを比べながら、学び合うことができるようになった。
- ねらいについての実態調査が、児童理解に大変有効であった。

IV 郷土を愛する心を育てる指導の工夫（第4分科会）

1 分科会テーマ設定の理由

児童は様々な経験を経て成長する。その母体となるのは、わが家を中心とした生活の場であり、それぞれの所属する地域社会である。つまり、児童の成長にかかわるすべてのことが生まれ育った環境としてある地域社会を切り離して考えることはできない。したがって、児童が豊かでたくましい心を持ち、多くの人々と支え合い、助け合うようになるためには、まず自分の住んでいる地域社会（以下、郷土と表す）の身近な人々との触れ合いを通して生きることの意義や意味を知り、それを身に付けていくことが基本となる。

しかし、今日、めまぐるしく移り変わる社会の中において、人と人とのつながりや温かな人間関係が薄れ、思いやりが失われてきていることが強く指摘されている。また、郷土においては、そこに根ざした文化や伝統に興味をもったり、それらを受け継いでいこうとしたりすることが、人々から忘れ去られようとしている傾向にある。しかし、そのような中でも、児童は地域社会の様々な行事に少なからず参加し、郷土に対してかかわりをもっている。

そこで、郷土のよさに気付き、親しみを感じ、郷土での自分の生き方を自覚することが大切である。そのことが、やがて郷土の文化や伝統を守り、育てることになると信ずる。

第4分科会では、全体の研究主題「よりよく生きる力を育てる道德授業」の、よりよく生きる力を、「郷土に親しみ、郷土の文化や伝統を大切にして、郷土をさらに発展させようとする力」ととらえた。このような心の育成は、これからの重要な教育課題の一つであると考え、分科会のテーマを設定した。

道德の時間においては、以上の考え方に基づき、工夫した指導を日常的に積み重ねていくことによってテーマに迫りたいと考えている。

2 児童の実態調査

- (1) ねらい 郷土に関する児童の考えや意識の傾向を把握することにより、「郷土を愛する心を育てる」指導の工夫に役立てる。
- (2) 方法 選択技法及び記述法を用い、全学年同一内容にしたが、一部低学年と中・高学年とを分けたものがある。（設問内容を参照のこと）

調査対象は、都内8か所の、低・中・高学年（各学校計3学級）合計706名（低248、中232、高226）とした。

《設問内容》

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 自分の住んでいるところが好きですか。② ①で（とても好き・好き）を選んだわけを書きましょう。③ よその町から人が来たら、自分の住んでいるところのどこを一番に紹介しますか。④ よくあそぶところはどこですか。＜低学年のみ＞⑤ 地域のどんな行事や活動に参加していますか。＜中・高学年のみ＞ |
|---|

3 郷土を愛する心を育てる指導の工夫

	◎…郷土を愛する心を育てることに直接かかわるもの
ねらい	◎低学年では、郷土を愛する心と密接に関連する指導内容を取り上げた。 ◎高学年では、郷土愛と愛国心とを分けて取り上げた。
導入	◎身近な学区域や区市町村，東京都内にある郷土にかかわるものの拡大写真（A3程度）を提示して，ねらいとする道徳的価値や資料への導入を図った。 ◎地域の祭りや行事の様子の録音・録画テープを流して，ねらいとする道徳的価値や資料への導入を図った。
展開前段	◎身近な地域社会から題材を探し，資料を自作してねらいにせまった。 ◎既成の資料を用いるときは，十分に検討を重ねて，その地域社会に育つ児童の実態に即した扱いをした。 ◎地域社会に生きる人物の拡大写真を提示して，より親しみがわくようにした。 ・児童の心に残ったことから学習問題を作り，意欲的な学習ができるようにした。 ・役割演技やペープサート，ワークシートを使って，主人公に共感するようにした。
展開後段	◎地域の人を教室に招いて話をしてもらい，郷土を愛することの大切さを考えることができるようにした。 ◎身近な地域社会の様子をVTRで流して，郷土の情景や郷土にかかわって生きる自分を振り返りやすくした。 ◎郷土に対する自分の心情を深く考えるために，ワークシートを用いた。 ◎生活科で作った「おすすめのばしょ」の絵を提示して，郷土での活動を思い出やすくした。 ◎友達が郷土とどうかかわっているかを知り，郷土と自分とのかかわりが一層意識できるように，グループで話合う場を設けた。 ◎郷土にかかわる作文を読み，郷土を守り，育てることの大切さを考えやすくした。
終末	◎心情を豊かにするために，教師自身の郷土への思いや郷土での出来事を話した。 ◎地域の人へ手紙を書いた。
全体から	・教師の指名や児童相互の指名を適切に使い，多くの児童が発言できるようにした。 ・学習の仕方が身に付くように，ルール作りをした。 ・児童が考える時間を十分に確保するために，教師の発問を精選した。 ・話し合い活動が活発にできる座席の配置を工夫した。

4 実践事例（第3学年）

- (1) 主題名 郷土を愛する心（4-⑤郷土愛） 資料名 「ぼくたちの公園」（自作資料）
- (2) ねらい 郷土の行事や活動に興味をもち、進んでかかわろうとする心情を育てる。
- (3) 指導の実際

＜資料＞

『ぼくたちの公園』

「たけし、今日は公園掃除の日よ。」僕は、お母さんの元気な声で目が覚めました。今日は日曜日、すばらしくよい天気です。正直いって、僕はあまり公園掃除が好きではありません。せっかくの日曜日なのに、公園は広いので遊ぶ時間が少なくなってしまうたり、と中であきてしまったりするからです。／朝ごはんを食べ、お母さんと一緒に掃除道具を持って公園に行ってみると、子供会の役員さんや友達はまだ掃除を始めていました。お母さんはみんなに「遅くなってすみません。」と、声をかけ掃除にとりかかりました。僕はちょっと立ち止まって様子をながめていましたが、つまらないのでほうきを振り回して遊び始めました。「たけし、そこのごみを拾いなさい。あらあら、空き缶も落ちているわ。」僕はお母さんの声にはっとして掃除にとりかかりました。「たけし、この公園はね、お年寄りや子供や地域の人達が安心して楽しく遊んだり、行事や活動ができるようにと、みんなでこうやって昔から掃除を続けているのよ。お母さんもたけしぐらいの時、毎月地域の人達と一緒に公園掃除をしたのよ。」お母さんは落ちている空き缶を拾いながら言いました。「えっ、そんなに長い間地域の人達はきれいにし続けているの。」僕は、しだいにお母さんの魔法にかかったように草取りも始めました。「たけしがとても楽しみにしている9月のお祭りも、おじいさんやおばあさんが子供のころからずっと続けているのよ。お母さんも子供の時はたけしと同じようにとてもたのしみだったわ。おみこしや出店の準備も手伝ったのよ。」僕は去年のお祭りの準備のことを思い出しました。昔から住んでいる人達も新しく来た人達も、色々なことを教え合ったり助け合ったりしていました。／僕は草を取る手にぐんと力を入れました。今までよりずっとこの公園が好きになりました。

第4分科会における評価・支援の定義

- ★評価…ねらいにかかわる児童のありのままの反応を、教師が、共感的・受容的・肯定的に受けとめ、指導に生かすこと。
- ☆支援…ねらいとする道徳的価値を児童が内面的に自覚していくための学習活動に対し、上記の評価に基づいて教師が行う様々な働きかけのこと。

《自分たちの公園なんだという心情を感じとる発問と児童の心の動き》抜粋

T お母さんの話を聞いて、草を取る手にぐんと力を入れた時、たけしはどんなことを考え

たでしょう。 【中心発問】

C 私は、自分の経験から、今まで僕が間違っていた、この公園は僕たちにとって大事な公園なんだと考えたと思います。★（公園への愛着）

☆T 大事なものなんだ！そうね、公園が大事なんだね。

- C 昔から、みんなですっと公園掃除をしてきたんだから、僕だってしないと悪いよな、お祭りだってきれいな方がいいし、という気持ちだと思います。★（公園や祭りに愛着）
- T P君に聞きたいんだけど、これはだれのお祭りなの。
- C みんなのお祭りです。★（みんなのお祭りだから、きれいにしようという意識）
- ☆T そう、だからきれいにしたいのね。もっと言いたい人。
- C 今年もお祭りやりたいし、おじいさんやおばあさんも来るし、この公園をきれいにした方が、みんなも気持ちいいやという気持ちです。
- C 地域の人達も昔から掃除を続けてきたので、これからは僕もがんばらうという気持ちです。★（守り続けていこうという思い）
- C みんなもがんばっている。よしやるぞ、大事な公園なんだ。★（自分のという意識）
- ☆T そう、すごい。よし、やるぞと思っていたのね。
- C この公園の掃除をしないと、昔から大事にしてきた公園がきたなくなってしまうたら困るなと思ったと思います。★（進んで守っていこうという気持ち）
- ☆T 大事な公園だという心があるのですね。
- C おじいちゃん、おばあちゃん、赤ちゃんまでこの公園に来るんだから、転んだりしたら困るからきれいにしよう。★（地域の公園のよさへの気付き）
- 《今までの自分を振り返るための発問と児童の心の動き》抜粋
- T これから、グループで話し合いをします。 ☆〔話し合う3つの視点を黒板に提示〕
—— 小グループでの話し合いの後、全体への発表をする ——
- T 今の自分の気持ちや友達の話でいいなと思うことがあったら、推薦してください。
- C わたしは、自分のことを言いたいです。缶拾いをしました。缶を分けたり、つぶしたりしたけどなかなかできなくて、暑くて気持ち悪くなって休みたかったけど、町内をきれいにしたかったので、やってよかったと思いました。★（積極的な地域とのかかわり）
- ☆T いい話でしたね。
- C Tちゃんの話を知りたいです。（地域での友達のかかわりに興味・関心）
- C 公園掃除に行ったの。友達と遊びたかったけど、お母さんに無理やり誘われて、いやだと思ったけど、みんなもがんばっているの、僕もがんばろうと思ってやりました。

(4) 考察

郷土を意識し郷土に親しみがもてるように、身近な公園を舞台とした資料を自作した。児童は、「知っている。」「行ったことがある。」などつぶやきながら、瞳を輝かせて資料の中にとび込んだ。中心発問では、自分と主人公とを重ねあわせている様子がワークシートや発表から見取ることができ、自分たちの公園だという意識をもつのに効果的であった。さらに、自分を振り返る部分では、グループでの話し合い活動を取り入れた。このことは、今まで、地域での行事や活動に消極的であった児童の「そういえば…」といったつぶやきを引き出した。

このような指導の工夫により、郷土での自分や、郷土と自分とのかかわりが一層意識できたといえる。したがって、郷土を愛する心を育てるのに効果的であったといえることができる。

◇研究の成果と今後の課題

研究主題「よりよく生きる力を育てる道徳授業」の解明を図るために、道徳の指導内容の4つの視点から分科会を構成し、それぞれに「目指す児童像」「分科会研究主題」「仮設」等を設け、具体的な授業実践を通して研究活動を進めてきた。

その結果、次の点が明らかになった。

1 研究活動全体を通して

児童が、本来もっているよりよく生きようとする願いを実現するためには、まず、教師が児童一人一人を受容的に共感的に肯定的に理解することが大切である。こうした愛情ある理解をされた児童は、情緒が安定し、自分の感じ方や考え方の方向に自信をもち、伸び伸びと自己を表現することができるようになる。更に、親和的で支持的な学級の雰囲気や望ましい人間関係は、心の育成にとって非常に大切な条件である。そのためには、同様に、教師が一人一人の児童をかけがえのない人間として認め、尊重し、支持していくことが大切である。こうした教師の姿勢や態度が児童の心に伝わり、児童相互の人間関係を豊かなものにしていくことができるのである。

また、豊かな道徳的実践力を育てるには、児童の側に立った道徳授業の改善を図ることが必要である。それには、今まで行ってきた指導過程をはじめとする指導方法の意味や意義についてあらためて見直し、児童が人間としての在り方や生き方を、その発達段階に応じて深く考えることができるような授業を、教師がその個性を発揮して創造していくことが大切である。

このようなことについて、根本的に考え、授業改善を試みることができたことは非常に意義のあることであった。

2 各分科会の研究活動を通して

第1分科会では、「自分を振り返り、自らのよさや可能性に気づき、向上していく児童」を目指し、研究を進めてきた。このような児童を育てるためには、児童が自分自身に関して肯定的な理解ができるようにすることが何より大切であることが分かった。

第2分科会では、「互いのよさを認め、高め合う児童」を目指し、研究を進めてきた。その結果、肯定的な自己理解と肯定的な他者理解とは相互に関連し合い、作用し合って望ましい人間理解や人間関係を深め、築いていくことが実証された。

第3分科会では、「美しいものに感動できる児童」を目指し、研究を進めてきた。その結果、自然の美しさや不思議さ、人間の行為の崇高さなどに感動できるようにするためには、資料吟味とその提示の工夫と同時に、日常の感動体験を豊かにすることの大切さを実感した。

第4分科会では、「郷土に親しみ、大切にし、育てようとする児童」を目指し、研究を進めてきた。その結果、まず、児童が身近な郷土に目を向け、郷土と自分とのかかわりを愛着をもって自覚することができる指導を工夫することの大切さが分かった。

今後の課題としては、更に個に応じた児童主体の学習が実現できるよう、指導過程をはじめ道徳の時間の指導の在り方を創造的に工夫・改善していく必要があると考えている。